

●今月の「ONLINE」情報●

検証！あの記事は今？～太陽光発電はいま？早期に着手した「ナカリ」の事例紹介

このシリーズではミカドONLINEで過去に取り上げたテーマの「その後」を特集しています。最終回は固定価格買い取り制度が始まる前に太陽光発電事業に着手した宮城県のオールライスメーカー、ナカリ株式会社様を取材し、中村信一郎代表取締役社長と角田浩志経理部課長（写真右）にお話を伺いました。

震災前に着手し現在は7か所に増設

ナカリ株式会社（以下、ナカリ（株））で太陽光発電設備の設置に着手したのは東日本大震災よりも前で、農林水産省の農山漁村6次産業化対策事業の一環として余剰電力買取方式（旧制度）でスタートしました。その後、2012年に固定価格買取制度（全量買取）が始まりナカリ（株）でも、次々と設備を増設。現在では最大出力合計が2,742kWにも及ぶ、7か所の太陽光発電所が運用されています。中でも、孫沢発電所は最大出力が1,543kWのメガソーラー。広い敷地に太陽光パネルが延々と続く様子は壮観です。



最初の経験が役立った孫沢発電所

ナカリ（株）の太陽光発電設備では二か所が野立て方式です。後発の孫沢発電所では随所に二回目ならではの工夫がこらされています。注意したのは、まず架台の高さ。最初の設備では、「特に意識することもなく、業者の設計通りに設置しました。」（角田課長）。ですが、宮城県内でも雪が多い大崎地方では、「下の高さが40cm程度では、落ちた雪がパネルより高く積もって、雪の落下を堰き止めてしまうんです。そのため、2つ目の設備では架台をぐんと高くしました。するとパネルの下にも人が入れるようにな

り、除草も非常に楽になりました。」

（角田課長）

また、一枚板のようにパネルを並べる従来の配置方法も、とこ



中村社長(左)と角田課長

ころに雪が残ってうまく落ちていかず、2つ目の設備では、「隙間があくように細切れに設置し、わざとずらして横にも傾斜をつけた」（角田課長）そうです。経験を生かして完成した孫沢発電所は、2014年（平成26年）8月に系統連系を行い、ナカリ（株）最大の太陽光発電設備として、今も順調に稼働しています。

しっかりした事業計画なら今後も採算可能

この4年間で、太陽光発電の買取価格が大きく下がりました。太陽光発電事業の今後について、社長の中村さんにお話を伺いました。中村社長「やっぱり太陽光は土地なんですよね。うちは倉庫の屋根や、資材置き場だった土地などを活用できましたが、今から土地を探すというのは厳しいかもしれません。売電価格については、現在は24円ということですが、設置コストも以前の半分ぐらいまで下がっています。弊社の初期の太陽光発電設備は、40円と36円だった年に認定されたものですが、旧制度での買取価格はもっと低かった（22円）ので、自分達は現在の価格が低いという感覚はあまりなく、今でも高いと思うぐらいです。事業計画さえしっかり立てれば、今からでも十分採算は見込めるのではないのでしょうか？」

最後に、設備の運用状況を角田課長にお尋ねすると、「ほぼ、計画通りです！」と笑顔の答えが返ってきました。地に足が付いた堅実な取組みが功を奏していることを感じ、大変勉強になった今回の取材でした。

今月の雑学

日から人への通過儀礼「七五三」



11月の神社は、七五三を祝う親子連れで賑わっています。晴れ着で神社に詣でたり千歳飴を食べたりと三、五、七歳で同じように祝いますが、本来は別々の行事でした。それぞれ、三歳で男女ともに髪を伸ばし始める「髪置」、五歳で男児が初めて袴を着ける「袴着」、七歳で女兒が幼児用の付紐を取り大人の帯を締める「帯解」という古くからの儀式です。11月15日という日付が定着したのは、徳川綱吉が長男・徳松の健康を盛大に祈ったことからと言われます。旧暦の15日は鬼が出歩かない鬼宿日で、婚礼以外は万事に大吉とされていました。収穫の月であり、3つの数字を足すと15になるためこの日にしたという説も。

医療が発達していない時代、子供が無事に育つというのは大変なことでした。「七つまでは神のうち」という言葉の通り、七歳までは神様からの預かりものであり、無事生きてきたお祝いと氏神様に感謝する七五三を通過儀礼に、人間として現世に生まれ変わるとされたそうです。現代では家族の都合に合わせて行うことも多いですが、日付や形式へのこだわりは薄れても、子供の成長を祈り喜ぶ気持ちはいつの時代も変わらないものですね。

医療が発達していない時代、子供が無事に育つというのは大変なことでした。「七つまでは神のうち」という言葉の通り、七歳までは神様からの預かりものであり、無事生きてきたお祝いと氏神様に感謝する七五三を通過儀礼に、人間として現世に生まれ変わるとされたそうです。現代では家族の都合に合わせて行うことも多いですが、日付や形式へのこだわりは薄れても、子供の成長を祈り喜ぶ気持ちはいつの時代も変わらないものですね。



高橋秀治さん①

20年ほど旅館・ホテルの営業一筋だったのですが、弊社の社長と出会って、一緒に仕事ができれば楽しいだろうと思い転職しました。かなりの異業種ですので飛び込むには正直勇気がいりましたが(笑)今は社長が校長を務めるプロセスマネジメント大学のセミナー企画なども担当しています。プロセスマネジメントとは、営業活動を科学的に分析して問題点を明確にし、「受注」という成功へのプロセスを正しく把握して改善していくという考え方です。まだ入社したばかりで右も左も分からない状態ですが、早く仕事を覚え会社を盛り上げていければと思っています。

編集部より



先日福島へ行こうと思い、東北道仙台南インターへ車を走らせていました。インターに入る手前に【国見】と書いてある画用紙を持った一人の男の子が見えました。どうみても我が家の子供と同じ年齢かな〜とついついなく、ハハゴコロが起動してしまい(笑)【国見】なら通り道なので車を停めて乗ってもらいました。話を聞けば、やはり我が家の子供たちと同じ位の年齢だった彼。1浪し、今年の4月から東北大学に入ったことや今回のヒッチハイクの事など国見サービスイリアまでの30分間が、あつという間のひと時でした。さわやかな後姿を見送り、「頑張ってるね」と思わず心でつぶやく私でした。(佐々木佳奈)

☆ミカドのワンポイント解説

06. 工場や体育館の高天井照明をLEDに

水銀ランプは今後、世界的に製造中止の方向へ

国連環境計画が管理する「水銀に関する水俣条約」において、日本を含む140カ国で2013年から段階的に水銀ランプを廃止し、早ければ2020年にも全面禁止となる見通しとなっています。GSユアサでは、主に工場灯・体育館灯で使用されている水銀ランプ※1 (400W/700W) の交換に最適な製品「LEGA JD3042A/JD3162A」を新発売しました。新製品は、最新のLEDモジュールを用いており、消費電力量は従来品の約80%です。GSユアサは、GS(旧:日本電池)と旧:ユアサコーポレーションが2004年に経営統合してできた会社です。GSユアサと聞くと、バッテリーをイメージされる方も多いと思いますが、前身の日本電池では、電池から派生した研究で、日本初の超高圧水銀ランプを1940年に開発し、「あかり」の分野でも実は歴史があるのです。現在は、長年の技術力を生かし、LEDを使った高天井用照明器具「LEGA」シリーズのラインアップの拡充に取り組み、時代の流れとお客様の使用環境に合った最適な照明を提案しています。

Pick Up!
GSユアサにゆ〜す



LEGA JD3042A/D3162A

ミカド電装商事株式会社

TEL.022-256-8191 FAX.022-291-5403

〒984-0051 仙台市若林区新寺3丁目4-30

・ミカド電装 HP <http://www.mikado-d.co.jp/>

・大型リチウムイオン電池専用 HP <http://www.mikado-d.co.jp/cp/>

ミカド ONLINE

<http://www.mikado-d.co.jp/online/>

お届けした記事はネットでもご覧いただけます。

「ミカド ONLINE」で検索!!



編集: 沢田元一郎・佐々木佳奈・笹崎久美子・小幡友里恵

社員紹介

※この配信サ
本レターの第
め、掲載記事

え、ミカド電装商事からのお知らせを不定期に配信する場合がありますので、あらかじめご了承ください。断りいたします。また「バックアップ」の著作権は、ミカド電装商事様およびその情報提供者に帰属するた